

平成 21 年秋期 応用情報技術者試験合格発表 分析コメントと今後の対策

(株) アイテック 情報技術教育研究部 2009,12,21

先の 10 月 18 日(日)に行われた新試験制度 2 回目となる平成 21 年秋期の情報処理技術者試験について、先月発表された IT パスポート/基本情報試験以外の 6 試験の合格発表がありました。同時に発表されたスコア分布などの統計データをもとに、応用情報技術者試験の合格発表コメントをお知らせします。

■応用情報技術者試験 (AP)

[平成 21 年秋期の応用情報技術者試験 統計情報]

応募者	62,294 人
受験者	41,565 人
合格者	8,908 人
合格率	21.4%

新試験第 2 回目の実施となる平成 21 年秋期の応用情報技術者試験では、前回平成 21 年春期の試験に比べ応募者が 6,000 人ほど増えましたが、合格者は 600 人ほど減りました。合格率は 21.4% で前回の試験よりも難しかったことが伺われます。前回の春期試験の合格率は 26.1% で過去最高の値で、これよりも下がりましたが、平成 20 年秋期まで実施されたソフトウェア開発技術者試験の合格率の最高は 18.8% ですので、旧試験と比べればやや高い合格率といえます。

今回の試験の傾向や特徴をまとめると、次のようになります。

[午前問題]

- ・ 前回の新試験制度 1 回目の試験内容では新たに加わった分野の問題が平易な問題で、難しく感じる問題は多くありませんでしたが、2 回目の平成 21 年秋の試験では、前回より新傾向の問題が多かったために、やや難しく感じた受験者が多かったと思われます。特に、前は新傾向の問題が少なく比較的平易な印象を受けたマネジメント系分野とストラテジ系分野において、初めて出題された問題が目立ち、難易度を上げたといえます。
- ・ 過去問題は 5 割強ありましたので、過去の良問をよく理解しておくことが、従来どおり効果的な午前試験対策になるといえます。
- ・ 新傾向または新しい用語に関する問題は次のとおりです。初めて出題される問題が前回よりも多くなっていますが、新試験で追加された分野の重要問題ですので、これらの内容は類似問題が次回も出題される可能性があります。今回も高度系試験共通の午前 I 試験は、出題された 30 問すべてが、この応用情報技術者試験で出題された 80 問から選ばれた問題でした。

今回、試験に合格された方も、今秋の高度系試験でこれらの新傾向問題に関連する内容が出題される可能性が大きいので、午前 II の出題範囲に該当する問題については十分に理解しておきましょう。

問 5 連結リスト

問 7 Linux の共有ライブラリ

問 14 HPC マシンの性能

問 22 機械制御装置 PLC

問 24 リトルエンディアン

問 25 Web アクセシビリティ

問 42 無線 LAN の端末接続制限

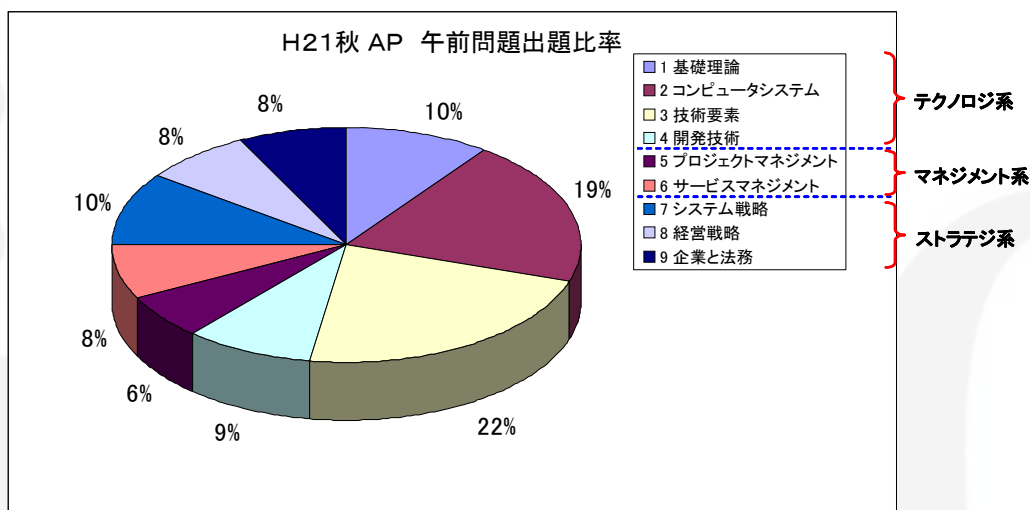
問 51 アードバリュー分析

問 57 ITIL のプロセス

- 問 58 システム監査証跡
- 問 59 監査調書
- 問 61 エンタープライズアーキテクチャ
- 問 62 ビジネスアーキテクチャ
- 問 66 CSR
- 問 67 RFI
- 問 71 ラディカルイノベーション
- 問 74 HDMI 規格
- 問 79 偽装請負

- ・ 計算問題は 7 問で、前回 21 年春期試験の 11 問に対して少し減りました。
- ・ 出題された問題の分野別比率は前回とほぼ同じで、テクノロジー系の出題比率がやや高めでした。新傾向問題に加えて、過去にも出題されたことがあるテーマでも正確な知識を必要とする問題（問 5、問 10、問 14）があったことも全体の難易度を高した理由の一つといえます。

平成 21 年秋期の応用情報技術者試験 午前問題出題比率



〔午後問題〕

新試験制度になって、従来ソフトウェア開発技術者試験であった午後Ⅱ試験は廃止され、午後試験一つになりました。午後試験では、問 1～2 で 1 問解答、問 3～12 で 5 問解答する選択方式になっています。問 3 以降の選択問題は各分野から出題されています。

- 問 1 ソフトウェア開発会社における工事進行基準適用（経営戦略） やや難
- 問 2 文字列照合処理（プログラミング） 普通～やや難
- 問 3 原価計算システムの再構築（経営戦略） 普通
- 問 4 Web システムの構成（システムアーキテクチャ） やや難
- 問 5 リモートアクセス（ネットワーク） やや難
- 問 6 旅行業務用データベースの設計（データベース） 普通
- 問 7 デジタルフォトフレーム（組込みシステム開発） 普通
- 問 8 開発プロセスでのテスト（情報システム開発） やや易
- 問 9 公開鍵基盤を用いた社員認証システム（情報セキュリティ） 普通
- 問 10 プロジェクトのリスクマネジメント（プロジェクトマネジメント） やや難
- 問 11 IT サービスにおけるサービスサポート（IT サービスマネジメント） 普通
- 問 12 内部統制の整備状況の評価（システム監査） 普通

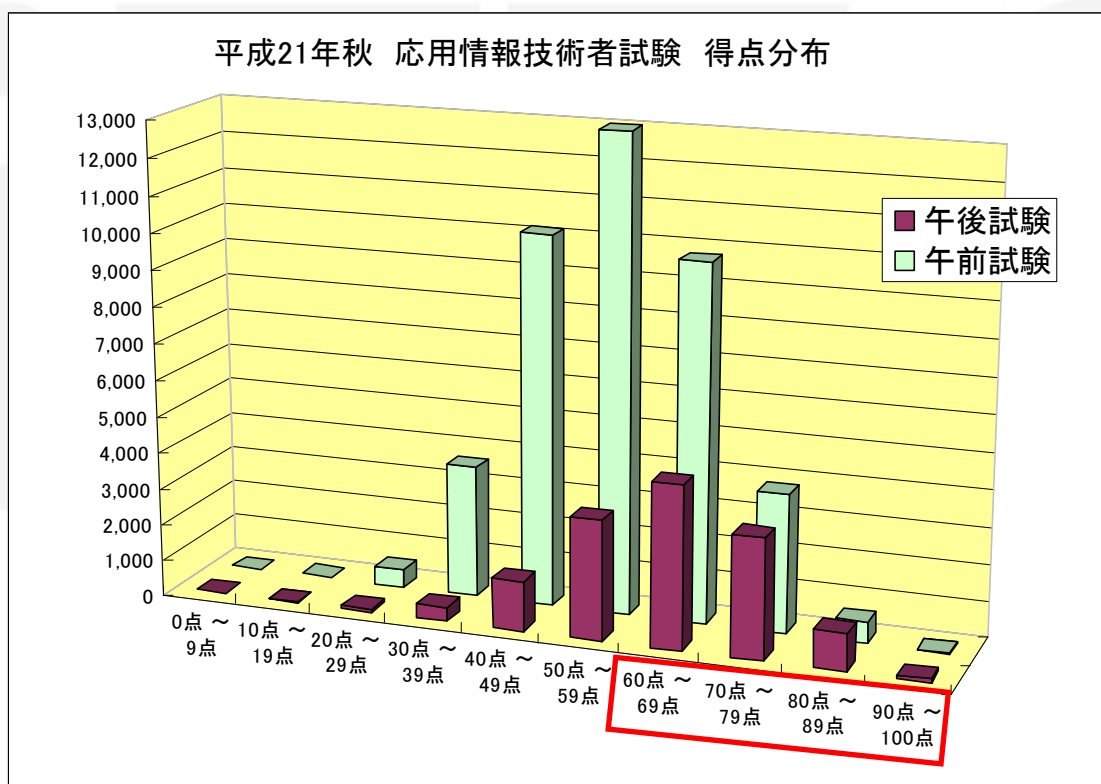
問題内容としては、やや長文の問 1、問 2 を含めて、やや難しい問題がいくつかありました。また、問 3 以降の選択問題も全体として前回の試験よりも難しくなっているといえます。

発表された応用情報技術者試験のスコア分布をグラフと合わせて示すと、次のようになります。

〔平成 21 年秋 応用情報技術者試験 スコア分布〕

平成 21 年秋 AP	応募者	受験者	合格者
人数	62,294	41,565	8,908
率		66.7%	21.4%

得点	午前試験	午後試験	合格者
0 点 ~ 9 点	8	16	
10 点 ~ 19 点	29	25	
20 点 ~ 29 点	481	77	
30 点 ~ 39 点	3,622	386	
40 点 ~ 49 点	10,139	1,363	
50 点 ~ 59 点	13,115	3,291	
60 点 ~ 69 点	9,764	4,470	
70 点 ~ 79 点	3,797	3,307	
80 点 ~ 89 点	593	1,034	
90 点 ~ 100 点	17	97	
計	41,565	14,066	8,908
対前試験比率		33.8%	63.3%



今回の平成 21 年秋の試験の午前試験では合格基準点の 60 点以上の人が 14,171 人で受験者の 34.1%にしか達しませんでした。前回の 21 年春の試験では受験者の 54.2%が 60 点以上でしたので、合格発表前にアイテックで予測していた以上に受験者の方たちにとって難しい問題だったといえます。

午後試験で合格基準点の 60 点以上を超えている人すなわち合格者が 8,908 人(同 63.3%)います。

午後試験の問題自体は前回よりも難しかったと考えていますが、難しい午前試験を突破した方の採点だったためか、比率としては前回の 48.7%よりも上がっていました

ボーダラインといえる得点の人について、午前試験で 50 点以上 60 点未満の人が 13,115 人(受験者の 31.6%)、午後試験で 50 点以上 60 点未満の人が 3,291 人(同 23.4%)います。この方たちは実力的にはほんとうにあと一步のところまで来ていますので、苦手と感じる分野を中心に早めに次の試験対策を始めてください。

午後の試験で合格スコアに至らなかった方は、今後の対策として、「午前試験で出題される知識の理解度をまず上げ」、その次に、「午後試験で必要とされている知識を題材として、さらに深く学習する」ことが大切です。

■合否別の試験対策と通信教育、セミナーのご案内

(今回合格された人へ)

合格された方で来春の情報セキュリティスペシャリスト、データベーススペシャリストやエンベデッドシステムスペシャリスト、プロジェクトマネージャ、システム監査技術者試験を目指す方は、午前の試験が午前Ⅰの共通知識と午前Ⅱの専門知識に分かれます。午前Ⅰ試験は免除になりますので、午前Ⅱの専門分野知識については、なるべく早く試験対策を始めてください。

午後Ⅱ試験が論文となるプロジェクトマネージャ、システム監査技術者試験を受けられる方は、新試験の内容や出題範囲をよく理解して学習することが必要です。論文試験で合格点の A 評価を取るためには第三者の添削が欠かせません。アイテックの通信教育では必要なテキスト、模擬試験に加え、論文添削も行っていますので、ぜひご利用ください。

アイテックで出版している試験対策用の教科書(基礎テキスト)は新試験用にレベルごと分野ごとに新たに編集し直したものです。また、出題ポイントを効率的に学習するための「合格への総まとめ」、各試験別の予想問題集、本試験問題は新試験対策用に大改訂しています。これらすべての書籍が書店またはアイテックの Web ページ (<http://www.itec.jp/shop/>) でご購入いただけます。ぜひご利用下さい。

通信教育コースでは、高度系の午前Ⅰ試験が免除になる方のために最適な教材(高度専門知識テキスト、午後試験重点対策テキスト、予想問題集、本試験問題集、模擬試験(2回)、論文添削(2回;午後Ⅱが論述試験のコース対象)をお得なセット価格でご提供する標準学習時間 3 か月の「**免除コース**」(2010年1月開講)をお勧めします。ぜひ、ご利用ください。

午前Ⅰ試験に出題される IT 共通知識のレベル 3 も含めて、総合的に学習したい方には、基礎テキスト(分野別全 6 冊)、午前Ⅰ対策用「合格への総まとめ」、午後試験重点対策テキスト、予想問題集、本試験問題集、模擬試験(2回)、論文添削(2回;午後Ⅱが論述試験のコース対象)をすべて含んだ標準学習期間 6 か月の「**総合コース**」をお勧めします。

この他、テキストなどをすでにお持ちの方向けに、問題演習を中心に行うための午前ポイント集、最新問題集(予想問題集、本試験問題集)と模擬試験(2回)、論文添削(2回;午後Ⅱが論述試験のコース対象)をセットにした標準学習時間 4 か月の「**速習コース**」ほか、各コースの e ラーニングなどメニューをたくさん用意しておりますので、ぜひご利用ください。

また、試験対策を受験対策のプロ講師が解説するセミナー「**合格ゼミ**」は、試験対策のノウハウや専門知識を効率的に理解できるセミナーと大変好評を頂いており、お勧めします。締切りの近いコース・セミナーもありますので、急いで確認しましょう。

各コースの内容は弊社のホームページからご覧いただけます。

<http://www.itec.co.jp/>

(今回残念ながら不合格だった人)

まず、自分がよく理解していない内容について早めの学習が必要です。苦手な分野は、アイテック刊行の新試験用のレベル3の教科書(通信教育教材)でじっくり学習しましょう。

今回の午前試験の得点が50点~59点の人は、合格までほんとうに“あと一歩”のところまで実力が来ていますので、学習した知識が薄れないうちに、早めに次回試験の対策として復習を行い、新たに加わった分野の学習を始めましょう。

また、午後試験の得点が60点に満たなかった人は、確実な解答を出すために、落ち着いて問題を解き、解答が正しいかを検証する力を付けましょう。新試験では選択範囲が広がったことで解答しやすくなるとも言えますので、チャンスが広がると考え、早めに対策を行いましょう。

なお、午後試験に強くなるには、時間を決めた問題演習やアイテックの模擬試験を会場で受けるなど、試験会場の環境を考えたいで問題を解く訓練を行うのが有効です。

この他、アイテックで出版している「午前に出る情報技術」や予想問題集、試験対策を受験対策のプロ講師がセミナーで行う「合格ゼミ」、通信教育コースでは、午前試験対策テキスト、テスト(論文あり試験では添削含む)をすべて含んだ標準学習期間6か月の「総合コース」と、問題演習を中心に行うための最新問題集と模擬テスト(2回)を含んだ標準学習期間4か月の「速習コース」、2010年1月開講・標準学習期間3か月の「免除コース」など、メニューをたくさん用意しておりますので、ぜひご利用ください。

各コースの内容は弊社のホームページからご覧いただけます。

<http://www.itec.co.jp/>

「合格への最短コース! 合格ゼミ」

受験対策のプロの講師の講義で効率的な学習を進めましょう。

定員に近い申込者数のコースもあります。お早めにお申込みください。

<http://www.itec.co.jp/class/campaign/index.html>

(以上)